

令和6年度 神戸大学2次試験前期日程(数学問題)120分  
理・工・医(医・保健(検査技術科学))・農・  
国際人間科学(環境共生(理科系))・海事科学

問題 1 2 3 4 5

1  $c$ を正の実数とする. 各項が正である数列  $\{a_n\}$  を次のように定める.  $a_1$  は関数

$$y = x + \sqrt{c - x^2} \quad (0 \leq x \leq \sqrt{c})$$

が最大値をとるときの  $x$  の値とする.  $a_{n+1}$  は関数

$$y = x + \sqrt{a_n - x^2} \quad (0 \leq x \leq \sqrt{a_n})$$

が最大値をとるときの  $x$  の値とする. 数列  $\{b_n\}$  を  $b_n = \log_2 a_n$  で定める. 以下の間に答えよ.

- (1)  $a_1$  を  $c$  を用いて表せ.
- (2)  $b_{n+1}$  を  $b_n$  を用いて表せ.
- (3) 数列  $\{b_n\}$  の一般項を  $n$  と  $c$  を用いて表せ.

2  $a, b, c$  は実数で,  $a \neq 0$  とする. 放物線  $C$  と直線  $l_1, l_2$  をそれぞれ

$$C: y = ax^2 + bx + c$$

$$l_1: y = -3x + 3$$

$$l_2: y = x + 3$$

で定める.  $l_1, l_2$  がともに  $C$  に接するとき, 以下の間に答えよ.

- (1)  $b$  を求めよ. また  $c$  を  $a$  を用いて表せ.
- (2)  $C$  が  $x$  軸と異なる2点で交わるとき,  $\frac{1}{a}$  のとりうる値の範囲を求めよ.
- (3)  $C$  と  $l_1$  の接点を  $P$ ,  $C$  と  $l_2$  の接点を  $Q$ , 放物線  $C$  の頂点を  $R$  とする.  $a$  が (2) の条件を満たしながら動くとき,  $\triangle PQR$  の重心  $G$  の軌跡を求めよ.

**3**  $n$  を自然数とする。以下の問に答えよ。

- (1) 1個のサイコロを投げて出た目が必ず  $n$  の約数となるような  $n$  を小さい順に3つ求めよ。
- (2) 1個のサイコロを投げて出た目が  $n$  の約数となる確率が  $\frac{5}{6}$  であるような  $n$  を小さい順に3つ求めよ。
- (3) 1個のサイコロを3回投げて出た目の積が160の約数となる確率を求めよ。

**4** 1辺の長さが  $\sqrt{2}$  の正方形 ABCD を底面にもち、高さが1である直方体 ABCD-EFGH を、頂点の座標がそれぞれ

$$\begin{aligned} A(1, 0, 0), B(0, 1, 0), C(-1, 0, 0), D(0, -1, 0) \\ E(1, 0, 1), F(0, 1, 1), G(-1, 0, 1), H(0, -1, 1) \end{aligned}$$

になるように  $xyz$  空間内におく。以下の問に答えよ。

- (1) 直方体 ABCD-EFGH を直線 AE のまわりに1回転してできる回転体を  $X_1$  とし、また直線 AB のまわりに1回転してできる回転体を  $X_2$  とする。  $X_1$  の体積  $V_1$  と  $X_2$  の体積  $V_2$  を求めよ。
- (2)  $0 \leq t \leq 1$  とする。平面  $x = t$  と線分 EF の共有点の座標を求めよ。
- (3) 直方体 ABCD-EFGH を  $x$  軸のまわりに1回転してできる回転体を  $X_3$  とする。  $X_3$  の体積  $V_3$  を求めよ。

**5** 0以上の実数  $x$  に対して、

$$f(x) = \frac{1}{2} \int_{-x}^x \frac{1}{1+u^2} du$$

と定める。以下の問に答えよ。

- (1)  $0 \leq \alpha < \frac{\pi}{2}$  を満たす実数  $\alpha$  に対して、  $f(\tan \alpha)$  を求めよ。
- (2)  $xy$  平面上で、次の連立不等式の表す領域を図示せよ。

$$0 \leq x \leq 1, \quad 0 \leq y \leq 1, \quad f(x) + f(y) \leq f(1)$$

またその領域の面積を求めよ。

## 解答例

**1** (1)  $\vec{u} = (1, 1)$ ,  $\vec{v} = (x, \sqrt{c-x^2})$  とすると,  $\vec{u} \cdot \vec{v} \leq |\vec{u}| |\vec{v}|$  であるから

$$x + \sqrt{c-x^2} \leq \sqrt{2}\sqrt{c}$$

上式において, 等号が成立するのは  $\vec{u}$  と  $\vec{v}$  が同じ向きするときであるから

$$x = \sqrt{c-x^2} \quad \text{これを解いて} \quad a_1 = x = \sqrt{\frac{c}{2}}$$

(2) (1) の結果を利用すると

$$a_{n+1} = \sqrt{\frac{a_n}{2}} \quad \text{ゆえに} \quad \log a_{n+1} = \frac{1}{2} \log a_n - \frac{1}{2}$$

$$b_n = \log a_n \quad \text{より} \quad b_{n+1} = \frac{1}{2} b_n - \frac{1}{2}$$

$$(3) \quad b_1 = \log_2 a_1 = \log_2 \sqrt{\frac{c}{2}} = \frac{1}{2} \log_2 c - \frac{1}{2}$$

$$(2) \text{ の結果から} \quad b_{n+1} + 1 = \frac{1}{2}(b_n + 1)$$

$\{b_n + 1\}$  は初項  $\frac{1}{2}(\log_2 c + 1)$ , 公比  $\frac{1}{2}$  の等比数列であるから

$$b_n + 1 = \frac{1}{2}(\log_2 c + 1) \left(\frac{1}{2}\right)^{n-1}$$

$$\text{よって} \quad b_n = (\log_2 c + 1) \left(\frac{1}{2}\right)^n - 1$$



**2** (1)  $l_1, l_2$  がともに  $C$  に接するとき

$$C' : y = ax^2 + (b+1)x + c$$

$$l'_1 : y = -2x + 3$$

$$l'_2 : y = 2x + 3$$

とすると,  $l'_1, l'_2$  はともに  $C'$  に接する.  $l'_1, l'_2$  は  $y$  軸対称より,  $C'$  も  $y$  軸対称であるから

$$b+1=0 \quad \text{ゆえに} \quad \mathbf{b = -1}$$

$C'$  と  $l'_1$  から  $y$  を消去して, 整理すると

$$ax^2 + 2x + c - 3 = 0 \quad (*)$$

上の2次方程式は重解をもつから, 係数について

$$D/4 = 1^2 - a(c-3) = 0 \quad \text{ゆえに} \quad \mathbf{c = \frac{1}{a} + 3}$$

(2) (1) の結果から  $C$  の方程式は  $y = ax^2 - x + \frac{1}{a} + 3$

$C$  は  $x$  軸と2点で交わるから, 係数について

$$D = (-1)^2 - 4a \left( \frac{1}{a} + 3 \right) > 0 \quad \text{ゆえに} \quad 1 + 4a < 0$$

上の第2式の両辺に  $\frac{1}{a^2}$  を掛けると

$$\frac{1}{a} \left( \frac{1}{a} + 4 \right) < 0 \quad \text{よって} \quad \mathbf{-4 < \frac{1}{a} < 0}$$

(3)  $C'$  と  $\ell_1$  の接点を  $P'$ ,  $C'$  と  $\ell_2$  の接点を  $Q'$  とする.

$$P' \text{ の } x \text{ 座標は, } (*) \text{ から } x = -\frac{2}{2a} = -\frac{1}{a}$$

$$Q' \text{ は } P' \text{ と } y \text{ 軸対称であるから, その } x \text{ 座標は } x = \frac{1}{a}$$

$P$  と  $P'$ ,  $Q$  と  $Q'$  の  $x$  座標は一致するから

$$C : y = ax^2 - x + \frac{1}{a} + 3 = a \left( x - \frac{1}{2a} \right)^2 + \frac{3}{4a} + 3$$

これより, 3点  $P$ ,  $Q$ ,  $R$  の座標を得る.

$$P \left( -\frac{1}{a}, \frac{3}{a} + 3 \right), \quad Q \left( \frac{1}{a}, \frac{1}{a} + 3 \right), \quad R \left( \frac{1}{2a}, \frac{3}{4a} + 3 \right)$$

$$\text{したがって, } \triangle PQR \text{ の重心 } G \text{ の座標は } \left( \frac{1}{6a}, \frac{19}{12a} + 3 \right)$$

$$(2) \text{ の結果から } -\frac{2}{3} < \frac{1}{6a} < 0$$

$$\frac{19}{12a} + 3 = \frac{19}{2} \cdot \frac{1}{6a} + 3$$

$$\text{よって, 点 } G \text{ の軌跡は 直線 } y = \frac{19}{2}x + 3 \left( -\frac{2}{3} < x < 0 \right) \quad \blacksquare$$

**3** (1) サイコロの目 1, 2, 3, 4, 5, 6 の最小公倍数は 60  
よって, 求める 3 つの数は **60, 120, 180**

(2)  $n$  の約数となるサイコロの目の集合を  $A$  とし,  $A$  の大きさ (要素の個数) を  $|A|$  とする.  $1 \in A, 2 \notin A \Rightarrow 6 \notin A, 3 \notin A \Rightarrow 6 \notin A, \{2, 3\} \subset A \Rightarrow 6 \in A$  に注意すると,  $|A| = 5$  となる  $A$  は次の 2 通り.

$$A = \{1, 2, 3, 4, 6\} \quad \text{または} \quad A = \{1, 2, 3, 5, 6\}$$

これを満たす  $n$  を小さい順に 3 つ求めると **12, 24, 30**

(3)  $160 = 2^5 \cdot 5$  より  $A = \{1, 2, 4, 5\}$

このとき, 5 の目が出るのは 1 回まで, 3 回とも 4 の目は出ない.

- 5 の目が出ないときの確率は

$$\left(\frac{3}{6}\right)^3 - \left(\frac{1}{6}\right)^3 = \frac{26}{216}$$

- 5 の目が 1 回出るときの確率は

$${}_3C_1 \left(\frac{1}{6}\right)^1 \left(\frac{3}{6}\right)^2 = \frac{27}{216}$$

これらの事象は互いに排反であるから, 求める確率は

$$\frac{26}{216} + \frac{27}{216} = \frac{53}{216}$$

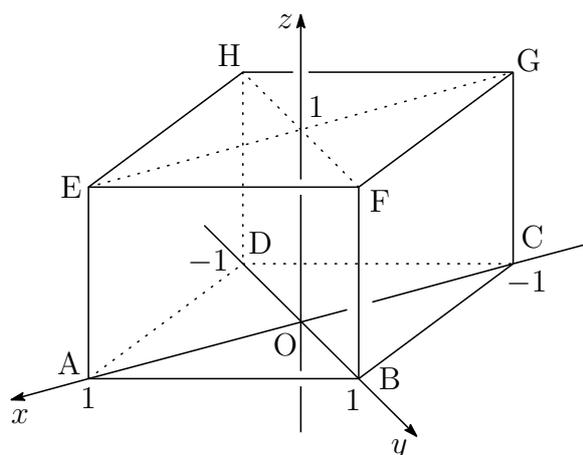


- 4 (1) 直線 AE のまわりに 1 回転してできる回転体  $X_1$  の体積  $V_1$  は

$$V_1 = \pi AC^2 \cdot AE = \pi \cdot 2^2 \cdot 1 = 4\pi$$

$A(1, 0, 0)$ ,  $B(0, 1, 0)$ ,  $H(0, -1, 1)$  より  $AB = \sqrt{2}$ ,  $AH^2 = 3$   
直線 AB のまわりに 1 回転してできる回転体  $X_2$  の体積  $V_2$  は

$$V_2 = \pi AH^2 \cdot AB = \pi \cdot 3 \cdot \sqrt{2} = 3\sqrt{2}\pi$$



- (2) 直線 EF の方程式は  $x + y = 1, z = 1$   
これと平面  $x = t$  との共有点の座標は  $(t, 1 - t, 1)$   
 $0 \leq t \leq 1, 0 \leq 1 - t \leq 1$  であるから、この共有点は線分 EF 上にある。  
よって、平面  $x = t$  と線分 EF との共有点の座標は  $(t, 1 - t, 1)$
- (3)  $x$  軸上の点  $(t, 0, 0)$  と (2) の共有点  $(t, 1 - t, 1)$  との距離を  $d$  とすると

$$d^2 = (t - 1)^2 + 1$$

したがって、求める回転体  $X_3$  の体積  $V_3$  は

$$\begin{aligned} \frac{V_3}{2\pi} &= \int_0^1 d^2 dt = \int_0^1 \{(t - 1)^2 + 1\} dt \\ &= \left[ \frac{1}{3}(t - 1)^3 + t \right]_0^1 = \frac{4}{3} \end{aligned}$$

よって  $V_3 = \frac{8}{3}\pi$  ■

5 (1)  $u = \tan \theta$  とすると  $\frac{du}{d\theta} = \frac{1}{\cos^2 \theta}$ 

$u$	$0 \rightarrow \tan \alpha$
$\theta$	$0 \rightarrow \alpha$

$$\begin{aligned} f(\tan \alpha) &= \frac{1}{2} \int_{-\tan \alpha}^{\tan \alpha} \frac{1}{1+u^2} du = \int_0^{\tan \alpha} \frac{1}{1+u^2} du \\ &= \int_0^{\alpha} \frac{1}{1+\tan^2 \theta} \cdot \frac{1}{\cos^2 \theta} d\theta = \int_0^{\alpha} d\theta = \alpha \end{aligned}$$

(2)  $x = \tan \theta_1$ ,  $y = \tan \theta_2$  とすると,  $0 \leq x \leq 1$ ,  $0 \leq y \leq 1$  ... ①

$$0 \leq \theta_1 \leq \frac{\pi}{4}, \quad 0 \leq \theta_2 \leq \frac{\pi}{4}$$

次に,  $f(x) + f(y) \leq f(1)$  を (1) の結論に適用すると

$$\theta_1 + \theta_2 \leq \frac{\pi}{4} \quad (\text{A})$$

$x = y = 1$ , すなわち,  $\theta_1 = \theta_2 = \frac{\pi}{4}$  とすると, (A) に反するから

$$0 \leq xy < 1 \quad \dots \text{②}$$

(A) から  $\tan(\theta_1 + \theta_2) \leq \tan \frac{\pi}{4}$

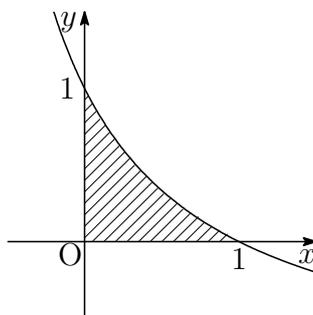
$$\frac{\tan \theta_1 + \tan \theta_2}{1 - \tan \theta_1 \tan \theta_2} \leq 1 \quad \text{ゆえに} \quad \frac{x+y}{1-xy} \leq 1$$

①, ② に注意して, 上の第 2 式を  $y$  について解くと

$$0 \leq y \leq \frac{-x+1}{x+1} = \frac{2}{x+1} - 1 \quad (0 \leq x \leq 1)$$

求める面積は, 下の図の斜線部分であるから

$$\int_0^1 \left( \frac{2}{x+1} - 1 \right) dx = \left[ 2 \log(x+1) - x \right]_0^1 = 2 \log 2 - 1$$



■